

瀬をばやみ岩にせかる

つぎ返す

滝川のわねても末に

軽くおこえろ右

あける

逢はむとぞ思ふ

中一二三

川瀬の流れが早いので、岩にせき止められた急流が二つにわかれてもまた一つになるように、貴方と別れてもいつかはきっと逢おうと思う。
(百人一首 七七番 崇徳院)